



2020年5月12日

各 位

会社名 株式会社 チェンジ
 代表者名 代表取締役兼執行役員社長 福留 大士
 (コード番号：3962 東証第一部)
 問合せ先 取締役兼執行役員CFO 山田 裕
 (TEL. 03-6435-7347)

2020年9月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2019年11月14日に公表した2020年9月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 2020年9月期 通期連結業績予想の修正 (2019年10月1日～2020年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 9,352	百万円 1,300	百万円 1,281	百万円 520	円 銭 33.20
今回修正予想(B)	10,500	2,619	2,623	1,022	64.89
増減額(B-A)	1,147	1,319	1,341	501	
増減率%	12.3	101.5	104.7	96.5	
(参考) 前期実績 (2019年9月期)	7,054	1,081	959	378	26.15

2. 業績予想修正の理由

当社グループは、中期経営計画「Digitize & Digitalize Japan」を掲げ、NEW-IT トランスフォーメーション事業・投資事業・パブリック事業を柱として、「人×技術」で日本の生産性を飛躍的に向上させる事業を展開しております。

当社グループの第1四半期（2019年10月～2019年12月）において、好調なスタートを切る事ができたことが今回の上方修正の主要因です。具体的には次の通り、2つの要因となります。

- (1) 現時点でパブリック事業の中核事業となっている、ふるさと納税プラットフォーム「ふるさとチョイス」を運営する子会社の株式会社トラストバンクにおいて、取り扱い寄附額が想定額を上回って好調に推移したこと。
- (2) NEW-IT トランスフォーメーション事業において、デジタルトランスフォーメーションを推進する人材育成案件や新たな技術を用いた業務のデジタル化プロジェクトが順調に拡大したこと。

第2四半期（2020年1月～2020年3月）においても順調に推移していたものの、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済活動の自粛・停滞によるマイナスの影響があったため、通期業績への寄与は売上高 1,672 百万円、営業利益 39 百万円、経常利益 57 百万円に留まりました。ただし、このような環境下でも、大型の M&A を除き、計画通りに人材採用やブロックチェーン技術を強みとする株式会社 Orb への出資等の施策を実行することができました。このような事業の状況を踏まえ、今回の業績修正には、2020年3月末までの売上・利益を織り込んでおります。

なお、2020年3月中旬よりコロナ対策を本格化させ、チェンジ・トラストバンク共に従業員の安全確保を前提としたテレワークの全面移行や事業内容・サービス内容の“ウイズ・コロナ”へのシフトを迅速に実行いたしました。その結果、2020年4月は保守的に見積もった速報にはなりますが、売上 900 百万円（前年同月 664 百万円、前年同月比 35.5%増）、営業利益 256 百万円（前年同月 164 百万円、前年同月比 55.6%増）、経常利益 255 百万円（前年同月 181 百万円、前年同月比 40.3%増）と急激な改善を見せております。

依然として、新型コロナウイルスの日本経済及び当社グループ事業へのインパクトは不透明であり、合理的に予測することが困難であるため、第3四半期以降の業績については、売上 4,314 百万円、経常利益 0 円で極めて保守的に見積もった暫定的な業績予想としております。上記の通り、2020年4月に計上した経常利益 255 百万円の利益も含んでおりません。今回に引き続き、2020年8月の第3四半期の決算発表前後で業績の上方修正ができるよう、全力で社業の発展に尽くす所存でございます。

※上記業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上